

日本サニパック株式会社 様

IBMi帳票出力ワークフロー自動化により 製造業の納品・請求書関連業務課題を解消 業務効率化で全社DXの取り組みを推進

家庭用、業務用のポリエチレン製ゴミ袋、食品保存袋などを製造・販売し、国内トップクラスのシェアを誇る伊藤忠グループ企業、日本サニパック株式会社（以下、日本サニパック）。組織横断的なDX（デジタルトランスフォーメーション）プロジェクトを推進中の同社は、納品書および請求書の名寄せと封入封かん業務をピツニーボウズ「Relay® 4500」と「PlanetPress」により自動化。基幹システムであるIBMi（AS/400）ワークフロー改革で業務効率を向上すると共に、コロナ禍での事業継続にも大きな成果を実現しました。

課題

- 納品書・請求書件数が多く、IBMi（AS/400）からの帳票出力の業務負荷が高い
- 顧客ごとの仕分けと封入封かんが手作業のため非効率
- 業務自動化により余裕を生み出し、DXを推進したい

解決

- PlanetPressによりIBMi（AS/400）からの帳票出力ワークフローを自動化
- Relay® 4500で封入封かん作業を自動化、帳票関連業務の大幅な時間削減
- 省人化によりコロナ禍の事業継続にも大きな成果

User Profile

sanipak
きれいな地球と、きれいな心を。

日本サニパック株式会社

本社：東京都渋谷区
幡ヶ谷一丁目25番5号

設立：1970年

従業員数：86名
(2021年3月末現在)

資本金：2,000万円

年商：115億円
(2020年3月期)

事業内容：ゴミ袋、食品保存袋、水切り袋など、紙製ゴミ袋などポリエチレン製袋の製造・販売

<http://www.sanipak.co.jp/>

1970年の創業から一貫して家庭用および業務用のポリエチレン製ゴミ袋、食品保存袋、水切り袋などの製造・販売を行い、国内トップクラスのシェアを誇る日本サニパック。業界では数少ない自社工場による一貫した生産体制が特長で、インドネシア工場では日本品質の徹底した管理のもと、高品質製品の製造が行われています。

同社は2017年、インドネシア工場でトヨタ生産方式を採り入れた「カイゼン（改善）」活動をスタート。それを日本サイドにも拡大し、現在、組織横断プロジェクトとしてDXに向けたさまざまな取り組みが推進されています。SCMグループ デジタルトランスフォーメーション推進部 部長代行の宇野康典氏は「当社は企業規模こそ大きくありませんが、インドネシアの生産から委託する物流までを一貫してコントロールできる強みを持ちます。その一方、業務におけるデータ活用が部署単位に留まり連携しにくいという課題を抱えていました。それを解消するために部門横断のSCMグループを立ち上げ、Fax-OCRの活用、LINEを用いた小規模事業者向けの小口の受発注および与信管理の仕組み化など、さまざまな業務の見える化と自動化およびデータ活用、全体最適化の取り組みを進めています。」と話します。



日本サニパック株式会社 SCMグループ
デジタルトランスフォーメーション推進部
部長代行

宇野 康典 様



日本サニパック株式会社 SCMグループ
デジタルトランスフォーメーション推進部
情報システム課 課長代行

小手川 勝己 様



日本サニパック株式会社 SCMグループ
デジタルトランスフォーメーション推進部
情報システム課

鈴木 大介 様

課題

少量多品種で大量の納品書と請求書が発生 営業部のヘルプを受けながら 手作業で封入封かん

同社は多品種・低単価の取扱い商品特性に加え、売上拡大に比例して納品書や請求書など帳票量も増加。宇野氏は従来の課題を、次のように話します。「十数年前から大口のお客さまとはEDIを用いる、消費者向けの販売では卸売企業とデータ連携を行うなどして紙帳票の削減に努めて来ましたが、それでも小規模事業者向け業務用商品関連の納品書約8,000枚、請求書約3,000枚が毎月発生します。毎月末や年末、年度末などの繁忙期には10名ほどの業務スタッフでは追いつかず、営業部スタッフの手も借りて対応しており、人手の業務負荷および誤封入リスク軽減のための自動化の仕組みを求めています。」

そんな折、宇野氏は展示会でピツニーボウズ製品と出会います。その時の印象を宇野氏は「想像していたよりもコンパクトで、費用対効果も高い。すぐに自社導入の検討を開始しました。」と語ります。同社は3~4社の製品と比較し、最終的にピツニーボウズの封入封かん機「Relay®4500」が選定されました。採用の決め手について宇野氏は「他社製品はサイズも大きく、複合機も導入する必要性がありました。その点ピツニーボウズは1台で完結できてコストメリットも高く、当社の処理能力的に最適なRelay®4500を選定しました。提案時に導入実績、安定性や故障率の低さ、メーカーとしての信頼性も把握でき、長期に渡り利用する機器なので、不具合があると業務に大きな影響を与えるため、大切な顧客接点の書類を取り扱う業務としての安心感がありました。」と話します。

宇野氏は導入のタイミングについて「事前にEDI化やデータ化など、紙帳票をこれ以上は減らせないとどこまで削減してから、自社の作業量に適した機器を選ぶことがポイント。」と、そのコツを明かしてくれました。

解決

IBMiからの帳票出力ワークフローおよび 封入封かん作業を自動化 年間約1,496時間の作業工数が、約60時間に削減

日本サニパックでは今回、封入封かん機「Relay®4500」と併せて処理プロセスの自動化ソフトウェア「PlanetPress」を導入。2020年9月から運用が開始されました。その後、機器のトラブルや封入ミスなどもなく、順調に利用されています。

IBMiからの帳票出力ワークフローを自動化

同社の基幹システムであるIBMi (AS/400) は、帳票印刷のために専用ラインプリンタと専用紙が必要。帳票のPDF化とカット紙出力のためのUT/400を導入しても、出力には人手による作業が残ります。宇野氏はこの課題を解決するため「PlanetPress」の導入を決意したと語ります。「製造業では月次の請求書に加えて、日々の納品書の件数が膨大です。この業務をなんとか自動化したいと考え、RPA活用なども検討しましたが、うまくいきませんでした。PlanetPressを選んだ理由は、IBMi (UT/400) からサーバにスプールされた帳票PDFデータを設定時間ごとに自動で取得、さらには汎用の複合機でプリントアウトまでのワークフローを、人手を介さず自動化できる点です。この組み合わせは、まさに我々が求めていたソリューションでした。」

専用プリンタと用紙が不要でスペースとコストも削減

SCMグループ デジタルトランスフォーメーション推進部 情報システム課 課長代行の小手川勝己氏は「今回のPlanetPressとRelay®4500の導入により、大型・高額なIBMi (AS/400) 専用プリンタおよび複写式の専用帳票用紙が不要となり、オフィススペースと専門用紙および保守コストも削減されました。」と語ります。

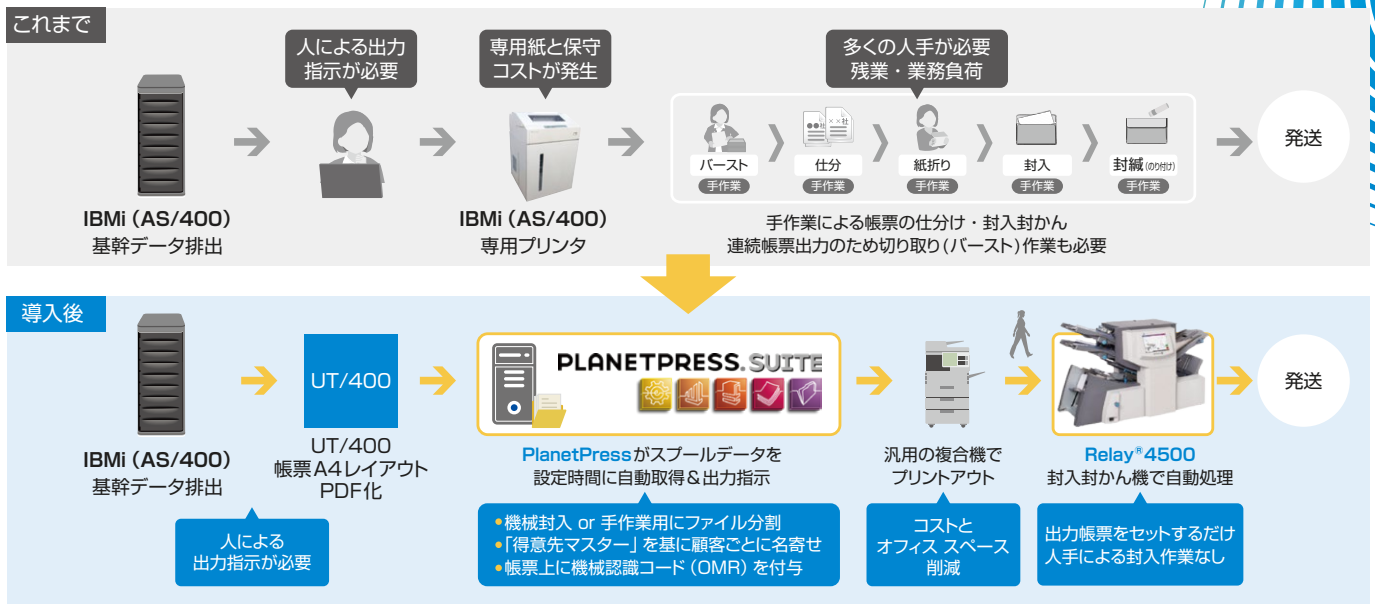
帳票の名寄せと封入封かんが自動化され、繁忙期にも残業が大幅減に

複数の納品書や請求書を顧客ごとに名寄せして封かんする作業は、これまで人手で行われていました。SCMグループ デジタルトランスフォーメーション推進部 情報システム課 鈴木大介氏は「年間1,496時間かかっていた帳票周りの業務が、およそ60時間に削減されました。PlanetPressでバーコード入りの帳票を出力し、Relay®4500で名寄せから封入封かんまでを自動で行えるようになり、ものの数分で完了します。繁忙期も営業部員のヘルプも不要で残業もなくなり、チラシなどの同封にも活用できるなど、体感での業務効率化効果はさらに高いものがあります。」と話します。

コロナ禍でのテレワーク推進にも効果を発揮

このソリューションは、コロナ禍でのテレワークにおいても効果的と宇野氏は語ります。「新型コロナウイルス感染拡大を受けて、当社もテレワークを推進しています。今回の自動化により帳票の作成および印刷指示は在宅からリモートで、封入封かんと発送業務はその日、出社しているわずかな人員だけで他の業務を行いながら負荷なく行える。これは事業継続の観点からも、大きな成果です。」

IBMi (AS/400) 帳票関連業務 ワークフロー効率化



今後

今後もさらなる業務の自動化・効率化とDXに向けた取り組みを推進

今後、保管文書のデータ化によるペーパーレス推進をはじめ、さらなる業務効率化の取り組みを進める日本サニパック。宇野氏は社内でもDX推進、ワークフロー変革を成功させるポイントとピツニーボウズへの期待について、次のように結びます。「日々の業務で作業に追われているとアイデアは生まれませんから、可能な限り作業は自動化・効率化して余裕を生み出し、データ活用で競争力を高めて、よりよいサービスをお客様に提供したいと考えています。しかし、情報システム側が『このシステムで自動化できます』と理屈で押し付けるだけでは使う側はなかなかイメージできず、変革が進みにくくなります。ですので、ユーザー部門の一人一人に導入後のワークフローのイメージをわかりやすく示して理解していただいて、一緒になってシステムの効果的な活用方法を考えることが大切だと思います。ピツニーボウズにはこれからもDX、業務の自動化と効率化につながる、使いやすいソリューションの提供に期待しています。」



お客様紹介

日本サニパック株式会社 様

日本サニパックは、業界では数少ない自社工場による一貫した生産体制を築いています。インドネシアのバタム島工場では日本品質の徹底した管理のもと高品質な製品を安定的に供給するほか、大阪・名古屋・福岡の営業所では地域により異なるお客様ニーズに合った商品開発を行っています。清潔で快適な生活をサポートする「ソーシャルインフラ」を担う企業として、CO₂を大幅に削減するゴミ袋やリサイクル製品など研究開発も進めています。毎年支援する「ハロウィンごみゼロ大作戦 in 渋谷」などの活動にも注力。2020年に50周年を迎えた私たちはこれからも伊藤忠グループ会社として、伊藤忠商事の企業理念「三方よし」と企業行動指針「ひとりの商人、無数の使命」をいままで以上に実践していきます。



pitney bowes 

ピツニーボウズは2020年に創立100周年を迎えました

<https://www.pitneybowes.com/jp>

ピツニーボウズジャパン株式会社
〒140-0001
東京都品川区北品川4-7-35 御殿山トラストタワー 12階
TEL.03-5657-1201(営業ダイヤル) FAX.03-3280-8900